第 1 回技術職員のためのグローバルセミナー

世界の研究現場を知ろう！　～ベトナムの大学ってどんなの？～　参加報告

令和 3 年 9 月 27 日　オンライン＠大阪大学接合科学研究所

山田　知沙

技術企画課

1　はじめに

令和 3 年 9 月 27 日（金），技術職員のためのグローバルセミナーを実施し，全国の大学術職員や留学生など 52 名が参加した．第 1 回は，大阪大学接合科学研究所の協力により，ベトナムに焦点を当てたグローバルセミナーを実施し，筆者は全国各大学の技術職員とともに，企画者のひとりとして及び留学生とのパネルディスカッションでのパネラーとして参加したので報告する．

2　目的

大学などの高等教育機関等で教育研究支援に携わる技術職員は，日本人学生だけでなく外国人研究者をサポートする立場にもある．しかし，現在に至るまで技術職員が国際的な視野を広げられる機会はほとんどなかった．そこで，平成 28 年度より，全国各大学技術職員有志がワーキンググループを結成し，英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し，技術職員が現場で使用する英語に特化した研修を行うことでコミュニケーション能力の向上を図ってきた．このような背景の中，技術職員が諸外国に関する見識を深め，より良い研究支援の輪を広げられるよう，世界各国の研究環境を知ることを目的とした．

3　プログラム

日　時　令和 3 年 9 月 27 日（金）　15:00　～　17:00

会　場　オンライン開催

総合司会　大阪大学接合科学研究所　植原　邦佳　氏

セミナー運営　大阪大学産業科学研究所　奥村　由香　氏

大阪大学大学院工学研究科　吉岡　潤子　氏

15:00-15:40　第 1 部　講演「異文化コミュニケーションとベトナムの研究現場」

大阪大学接合科学研究所　広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター

勝又　美穂子　特任准教授

図 1．セミナーフライヤー

15:40-16:40　第 2 部　ベトナム人留学生と技術職員によるパネルディスカッション

ファシリテーター　勝又美穂子准教授（大阪大学　接合科学研究所）

留学生パネラー　Han Le Duy　氏（大阪大学　接合科学研究所）

Trinh Quang Ngoc 氏（大阪大学　接合科学研究所）

技術職員パネラー　山田　知沙（山口大学総合技術部）

松本　香　氏（神戸大学大学院工学研究科　技術室）

横野　瑞希　氏（鳥取大学　技術部　化学バイオ・生命部門　機器分析分野）

16:40-17:00　第 3 部　全体の振り返り（ブレイクアウトセッションでの意見交換）

4　第 1 部 講演 「異文化コミュニケーションとベトナムの研究現場」

まず，第 1 部では勝又美穂子特任准教授が，「異文化コミュニケーションとベトナムの研究現場」と題して，講演を行った．ここでは，コミュニケーションの定義やミスコミュニケーションが起こる仕組みとそれを防ぐ対策，異文化理解とコミュニケーションについて等，コミュニケーション全般について述べられた後，ベトナムの大学と研究現場について触れた．コミュニケーションには言葉そのものの「言語コミュニケーション」と表情，ジェスチャー，格好，声の高さや調子，話す速さや目の動きなどに表れる「非言語コミュニケーション」があること，その中で，言語がコミュニケーションに与える影響レベルは 7%であることを知った．さらに，文化を細分化すると，音楽，文学，言葉，料理，衣装，ジェスチャー等の目に見える部分だけでなく，アイコンタクトや意思決定方式，表情，教師と生徒の関係，空間の取り方やマネジメント方法や問題解決法など，意識・無意識下における部分に分かれ，言葉とその言葉が発せられた背景や状況との関係性についての話があった．これらの話を聴く中で，異文化理解への態度として 8 つのポイントがあげられ，言葉や国を超えたアプローチを行っていくことで，実験などで留学生と接する際に気を付けるべきことを把握した．これからは，決して対象が留学生に限らず，日本人同士のあらゆる場面において意識することで，日常におけるコミュニケーションも円滑に運ぶことができると感じた．

紹介された異文化理解への態度（8 つのポイント）について記す．

1. お互いの考え方を理解・尊重する姿勢
2. 自文化中心のものの見方だけに囚われない態度
3. オープンで柔軟な心
4. 判断を保留する力
5. 感情をコントロールする力
6. 良い聴き手となる
7. 違いを楽しむ気持ち
8. 自分の失敗を笑うことができる余裕

図 2. 第 1 部講演の様子

5　第 2 部　留学生と技術職員によるパネルディスカッション　および　第 3 部　振り返り

次に，第 2 部　留学生と技術職員によるパネルディスカッションについて報告する．留学生はベトナムから大阪大学接合科学研究所の留学生からは，日本での留学中，研究環境や意思疎通において難しかったことなどを述べ，技術職員と意見交換を行った．留学生からは，先輩が後輩に指導するという研究体制がベトナムにはなく，戸惑ったことが挙げられた．

最後に，パネルディスカッションの後，ブレイクアウトセッションを設け，我々技術職員が今後留学生に対してどのように対応していくことが可能か，意見交換を行った．海外の教育研究体制を知るに留まらず，日本での研究体制が「当たり前」という思い込みを捨て，多様化を受け入れること，それにより新たな視点を取り入れることで，新しい発見があり，留学生に対しての接し方を考え直す機会となった．

6　おわりに

第 1 回技術職員のためのグローバルセミナー「世界の研究現場を知ろう！～ベトナムの大学ってどんなの？～」について，参加報告を行った．グローバル化したキャンパスの中で，実際に留学生と接する機会の多い我々技術職員も，英語コミュニケーション能力の向上だけでなく，諸外国における研究環境や日本との文化の相違を理解し，外国人研究者の心情に寄り添いながら多様性を活かせる場を提供することが重要であることを再認識した．今後，来日し研究を行う方々により良い環境を提供することを，組織の一員として心掛けたい．